

寂しいですが、さようなら！

暖かな日差しの中、寒さに耐えていた桜のつぼみが一気に膨らみ始め、春の訪れとともに、新年度の生活へと誘っているようです。

先日、3月5日全日制117名、3月11日定時制8名が荒川工業での学びを終え卒業しました。平成から令和に時代が移り変わり、世界中が未知なる経験であったコロナ禍の激動の中、楽しみにしていた体育祭や文化祭、修学旅行等の体験的な学びや、部活動も十分に実施できないまま、卒業生は荒工の学びを終え、それぞれの進路に歩み出ていきました。



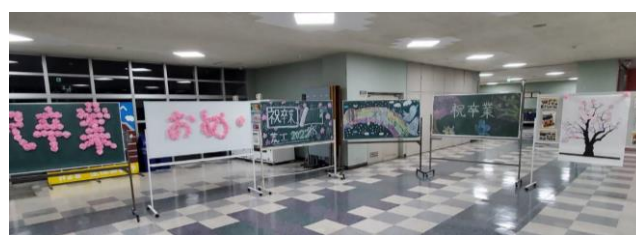
私は昨年4月に着任し、卒業生と過ごせたのはたった1年間だけでしたが、それでも多くの思い出があります。全定ともに、生徒会長が着任早々挨拶に来てくれたこと。一緒に汗を流した部活動や球技大会では、笑ったり、悔しがったり、**全てが楽しい思い出です**。そんな思い出を振り返りながら考えた「式辞」の一部を紹介します。

【全日制】「**一隅（いちぐう）を照らす**」を蠟（はなむけ）の言葉として贈りました。人の一生は、蠟燭（ろうそく）に例えられます。蠟燭に火が付き人生が始まり、火が消えて人生が終わる。しかし、その火は、**例え大きな明かりではなく、小さな光でも、周囲を照らす力を持っています**。だから、自分の明かりは、周囲の家族や友達、これから出会う人、出会うことはないが日本を支えている人、世界で悩み苦しんでいる人たちを照らす力があることを決して忘れずに、自分の蠟燭に一生懸命火をともし続けてください。

【定時制】憲法13条の「**幸福追求権**」を蠟の言葉として贈りました。全ての人は幸せになるために生まれ、幸せになるために生きています。言い換えれば、**人は幸せになる権利とともに、幸せになる義務があるということです**。保護者や友達、荒工の定時制の先生方等等、皆さんの幸せを願っている多くの人たちのためにも、全力で幸せを求めてほしい。つらい時、挫けそうなときは、荒工定での学びを思い出して頑張ってください。

在校生の皆さん、皆さんはどんな卒業式を迎えたいですか。惜別の春、希望の春、感動の春・・・などなど。**素晴らしい卒業式を迎えられるよう、学びへの挑戦を続けてください**。応援しています。

ぶらり、あらこう散歩



新たな出会いを楽しめ！荒工生！

「未来を創る！彩る！荒川工業」